

菊池短歌会

9月詠草

もう少し食を励めと念押され医院の扉うしろ手に閉むる 梅野かをり
充足も不足の憂ひも諾ひて今日また終はる「足踏み」軽し 黒田 衣子
ずんだれた服装態度に職なしと板書してあり三年の教室 古賀 勝士
いんぎんに聖書の類ひ置きゆけどイエスキリストわれを救はず 佐々木かつえ
ながかりし老いの田守りもやうやくに穂立ち終はりて秋の叢雨 竹野美智代
裏なだり立ち並む杉よ今日は秋声が身にしむつくつく法師 中川 愛子
厨窓に掛かりて古き夏すだれ今宵レモンの月を捉らふ 中原ちえ子
大木の櫛の一樹は野に老いて構造改善の波に呑まれる 山下 菊代
終戦後の飢ゑと重なる南瓜なれヘルパーさんの味付け美味し 山代 静子
ひねもすをことなく過ぎし新涼にふと鳴き初めし鈴虫があり 余語やす子



万句の里俳句会

9月句会

柘出るつかず離れず秋の蝶 齊藤 貴恵
猪垣の守る生活や峡の里 岩木 敬治
闇深し又新たななる蟲の声 打出 貞
秋の水ふんだんに引き養魚場 野中 公枝
月澄むやふるさとを持つ倅せに 隈部 輝子
食細き母に秋茄子焼き添へし 田島 房子
一列に白き風成し葎の花 加藤 妙子
母の忌の遠ざかりゆく白露かな 北村 妙子
一葉落ち溪の流れに加はりぬ 平山 邦子
生き方を問はれし一日秋彼岸 宮本 雅子
瀬の音をやさしく聞きて萩の咲く 林 まつ子
青空に刷きたるやうな秋の雲 富田 幸子

肥後狂句桜会

例会入選句集より

当てならん選挙事務所のハンゴさす 小川 繁美
生ビール手かえ品かえ出る新種 須藤 新生
知らんふり通り過ぎらす募金箱 狩野 本六
早やとちり彼じゃなかつた電話先 高倉 新米
知らんふりもう懲りごりの正義漢 太田 雄三
板に付きユーモア混じえ喋りきる 東 栄次
知らんふりうっかり割った柿エ門 藤由 藤紫
男らしさすばと蹴った袖の下 荒木 玄海

板に付きお客見ながら握る寿司 光堀 善教
当てならん一人息子はフリーター 窪田 明德
知らんふり牽制球で刺すつもり 安武 二山
板に付きギャルもすつかり二児の母 藤野 清子

泗水短歌会

9月詠草

生れましし新王なれば今宵月十六夜の光隅なく照らす 福原美智子
敬老日に菊池市長より九十五歳の祝ひ貰ひぬ百まで生きむ 藤本のり子
起きぬけに旗掲げ居る敬老日母の手術日明日となりたり 吉安 永子
蜘蛛の巣に雨露かかりしるがねの色重く揺る朝のしじまに 内田つね代
留守の間に季を刻みて庭に鳴く虫のすだける声が身に泌む 大島 ひとみ
冷房の止まることなく照る秋日無人飛行機稲田飛びびる 宮本 峯子
豆剣士あふるるばかりの試合場常と異なる孫の顔あり 高藤タツノ
幾度も危篤越えたる命なり貴き人が杖つき歩く 長尾はるみ
聴力の少しおちしか此の頃の音量高しと息子が言へり 中山 定子

せせらぎ俳句会

9月例会

うす暮れの神苑早も虫時雨 坂本まつえ
夫と築きし終の棲や貴舟菊 村山 数恵
一日の疲れ癒しの冷奴 五丁 義昭
採りたての胡瓜ひと揚げ句友らに 内村 鈴子
蜂除けてふ九月九日の栗を喰ふ 内村 泊虹
子かまきり親と同じく鎌を振る 服部 静子
白き腹見せて守宮のイナバウアー 寺本 和子
星満ちて虫の音満ちて野の尿 藤本 邦治
親王誕生庭の白萩も祝ぐ如く 藤本アツ子
見つけたよとつても大きなむかごの実 (中一) 渡辺 一史
赤色のあつあそこにもひがん花 (中二) 渡辺 大寿

肥後狂句水笑会

9月例会

ほんなこて喰わにや判らん海梅の味 英坊
精進料理 次ぎは家かも知れんばい 水光
精進料理 買物行けず野菜だけ 三代
夏休み遊んだつつけの溜まるとる 五女
ほんなこて 神も仏もおらずどか 三水
覚えきらん 今の家電の使い方 美由

七城短歌会

9月詠草

夏休みバスの中には座席ばかり 乗 仏
ほんなこつ 海でん山でんこわかなア 江 彩
精進料理 刺身は帰り買いよらす 好 茶
みどり児の頬撫でるがに咲き初めの薄紅の蓮の花に触れたり 岩津 涼子
農薬の散布は無入へり時代去年まで亡夫とホース引きにし 木下 陽子
時と吾忘れて励むパッチワーク夕陰いつしか縁に迫りき 堀 甲子
朝まだき光の中に少女らの脚美しく信号わたる 下川 つぎ
虫干しの衣裳は義姉の手製なり貰いて五十余年未だ色褪せず 吉間 充子
みどり田を見和ぎて刻を置き去りし稲は休まず穂孕みとなる 森 道子
うつし絵をかかけ兄を偲びるし事伝えたき兄嫁が往く 齊藤 芳子
日に三度飲みつく種々の錠剤が胃に溶け如何に心臓にとどく 岩崎 清継
草取る手休め羽広ぐ鳥のごと深呼吸する早き疲れに 岩崎 照代

旭志文芸俳句会

9月詠草

さつぱりと髪整えて夏祭 東 芳子
採り立ての梨さくさくと陽の匂ふ 中山 栄子
甲虫飼育箱揺する夜半かな 中尾ヨシコ
棲み老いぬ紺の朝顔共にあり 芹川 蓉子
明け涼や星も吞まむと大気吸う 出田みどり
今日も又五日続きの雷が 郷 ミヤ子
一步二歩歩みて座る蛙のごとへり 東 由香
小さい秋畔草青い実をつけて 芹川のり子
絵日記に事よせロケット花火かな 水谷 ミネ